

1/26 朝日

高齢者施設のワクチン接種 職員、入所者と同時可能に

新型コロナウイルスのワクチンについて厚生労働省は25日、高齢者施設の職員（約200万人）への接種は一定条件を満たした場合、時期を3～4月に前倒して施設入所者と同時期にできるとする方針を示した。

政府はワクチンの優先接種を、医療従事者、65歳以上の高齢者、持病のある人、高齢者施設の職員——の順番とする方針だ。この日の説明会で、日常的に入所者の健康を管理する医師が確保され、職員が同時に接種しても入所者の健康観察ができるなどを条件に、高齢者施設の入所者と職員と一緒に接種できるとした。厚

労省は前倒しの理由について「施設内のクラスター（感染者集団）対策の一層の推進のため」としている。

また、ワクチンは2回の接種が必要で、厚労省は3～4月にも始まる見込みの65歳以上の高齢者（約3600万人）への2回の接種をそれぞれ2カ月以内（9週間）で終えることができるよう市町村に求めた。

ワクチン接種に向けた総合調整を担う河野太郎行政改革相は25日、自治体が使っているシステムや厚労省のつくるシステムとは別に、国の費用で、個人個人の接種記録をリアルタイムで管理できるシステムを構築する考えを示した。